

**【お問い合わせ先】**

キャタピラー

渉外・広報室

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1

TEL: 045-682-3576 FAX 045-682-3690

本資料はCaterpillar米国本社が2020年7月31日に発信したプレスリリースを日本語に翻訳し、みなさまのご参考に提供するものです。  
本資料の正式言語は英語であり、その内容・会社については英語が優先します。

## Caterpillar が 2020 年第 2 四半期業績を発表

- 第2四半期の売上高は31%減、1株当たり利益は70%減
- 全社現金残高88億ドルの強固なバランスシート

(単位：10 億ドル、但し 1 株当たり利益除く)	第 2 四半期	
	2020	2019
売上高	\$10.0	\$14.4
1 株当たり利益	\$0.84	\$2.83

(イリノイ州ディアフィールド発) ——Caterpillar Inc. (NYSE: CAT) は本日、2020 年第 2 四半期の業績を発表しました。売上高は 100 億ドルで、144 億ドルだった前年同期に比べ 31% 減少しました。この減少は、エンドユーザー需要が落ち込んだことに加え、ディーラー各社の在庫変更の影響を受け販売台数が減少したことが原因となっています。ディーラー各社は今四半期、建設及び鉱山機械やエンジンの在庫を約 14 億ドル分削減しました（前年同期：約 5 億ドル分増大）。

本年第 2 四半期の 1 株当たり利益は 0.84 ドル（前年同期：2.83 ドル）でした。なお、この 1 株当たり利益には、年金債務支払い後の再測定による 1 億 2200 万ドル（1 株当たり 0.19 ドル）の税引き前損失が含まれています。同じく営業利益率は 7.8%（前年同期：15.3%）でした。

本年上半期は、全社営業キャッシュフローが 25 億ドルとなりました。Caterpillar は今第 2 四半期を、全社現金残高 88 億ドル、利用可能な流動性資産 185 億ドルで終わりました。Cat Financial は 7 月、同社の流動性ポジションを補う目的で、償還期限がそれぞれ 3 年および 18 ヶ月の新規中期社債を計 15 億ドル分発行しました。

### 新型コロナウイルス（COVID-19）への対応とグローバルな事業状況

Caterpillar の Jim Umpleby（アンプレビー）会長兼 CEO は、「世界中の社員が、継続的に安全を重視しながら、当社戦略を実行し、お客様にサービスを提供していることを誇らしく思

っています。この第2四半期、当社の社員やディーラー各社は、非常に困難な状況においても変わることなく、世界中のお客様に必要な製品・サービスの提供にひたすら取り組んでまいりました」と述べました。

## ■操業状況

Caterpillar は引き続き社員を守るために各施設で予防策を講じています。たとえば、清掃・消毒の頻度を上げ、ソーシャルディスタンスの確保を習慣化するほか、具体的な規制要件や保健医療当局のガイダンスに沿った各種対策を実施しています。

7月中旬時点で、世界中の Caterpillar の3つの主要セグメント（Caterpillar の主要生産拠点のほぼすべて）が稼働を続けています。この状態は、各種状況（経済の回復速度、新型コロナウイルスに関連して起こりうる追加的な一時休業など）に応じて、臨機応変に対応していきます。

当社は継続的にコスト削減策を講じており、サービスや製品拡充のための投資に向ける支出や、収益性の高い成長のための当社戦略（2017年に導入）の重要要素に向ける支出について、優先順位付けを行っています。

## ■見通し

本年下半期の Caterpillar の業績は、新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的蔓延で先行きの見えない状況が続くグローバル経済の影響を受けると考えられます。当社では、3月26日に予定していた Earning Guidance（経営者による業績予想）を中止しましたが、上記理由により、今回も通年見通しを提示しません。

アンプレビー会長兼 CEO は次のように述べています。「当社では、この極めて困難な時代に対応する準備が十分に整っています。なぜなら、当社戦略をしっかりと実行しているからです。社員の安全や、競争力のある柔軟なコスト構造の維持に注力すると共に、お客様により良いサービスを提供するべく、サービスや製品拡充のための投資を継続的に行っています。また、状況に応じて生産調整を行っていき、お客様の需要に上振れ・下振れのいかなる変化が生じてもいつでも迅速に対応できるような態勢を整えております」。

以上

### キャタピラー社について：

建設機械の歴史は、1925年にキャタピラー社と共に始まり、未来へ続きます。世界最大の建設機械メーカーであるだけでなく、エンジン・発電機などパワーシステムのリーディングサプライヤーでもあります。

また、1963年以来、キャタピラー社は、半世紀以上にわたって、日本に重要な拠点を構えています。特に、主力製品である油圧ショベルの開発・製造をリードし、時代の先端を行く製品と技術を世界へ発信しています。